

P I 協議会「とりまとめ」にあたっての意見

協議員
遠藤好照

(1) 必要性について

国が説明する外環の効果については、将来交通量など出ていないデータもあるが、外環ができれば、東名高速から関越道まで、現在およそ1時間かかっているものが12分で行けるようになるなど、利用者のニーズは高く、効果は他のどの道路よりも大きいと考えられます。

大深度地下方式となって地上部への影響は小さくなると思います。それでもJCTやIC周辺の地域への影響や、騒音や地下水など環境への影響は心配であり、環境影響評価の結果をみて、十分な対策が取られるのであれば、外環の必要性は認められるべきと考えます。

このため、とりまとめにあたって、第4章「まとめ」の(1)外環の必要性についての部分に、以下の趣旨を追加すべきだと考えます。

・・・住民が十分に納得できるだけの説明はなされなかった。

に続けて、

「このため、現時点では外環の必要性は認められない、との意見や、それでも外環は効果の点から必要性は十分にあると考えられ、環境への影響や、地元に必要な対策が取られるのであれば、外環は必要である、との意見が出された。しかし、最終的な共通認識には至らなかった。」

(2) 今後の進め方について

「とりまとめ」にあるように、今後ともPIを行うことが必要だと考えます。ただし、構想段階のPI協議会はこれまで2年に亘って協議を続けてきたが、現在の形で続けたのでは、将来交通量や環境影響評価の結果が出ても、協議会として外環の必要性の結論が出せるとは考えられません。

構想段階のPIは2年間で一旦区切りとし、3年目は、必要性の議論を残しつつも、具体的な計画を前提にICやJCT周辺等大きな影響が予測される地域での課題等を議論し、その上で時には必要性にさかのぼって議論する、という進め方がいいと考えます。